



2010年12月下旬、浜松医科大学の光子医学研究センターの一室。医師1人と技術者4人が集まり、精密機器の動作確認にあたり、患者の鼻から入れた内視鏡の位置を画面に表示する「内視鏡手術ナビゲーター」の開発現場だ。医師は脳外科が専門の山

### 内視鏡ナビ開発

静岡県の企業が強みとするモノづくりの技術を医療関連機器の製造に生かそうとする動きが強まっている。円高や新興国の台頭で空洞化の懸念が高まる中、成長分野とみられる医療への参入意欲は強い。規制のハードルが高い分野だけに、県も積極的に支援する構えだ。

光関連・画像処理・精密ねじ…

# モノ作りの技 医療に活用へ

2011. 1. 20日 経新聞掲載

## 県も産学との連携強化



浜松医大で内視鏡手術ナビゲーターの開発が進む。(写真左は山本准教授)

本清准教授。技術者は光デバイス検査装置メーカーの最終調整に余念がない。P E Tは放射線を光信号に換えて輪切りの画像にする。イメージング(撮像)技術を用いており、県西部の企業が蓄積した光技術を生かすことができる。県も支援

影装置(P E T)や関連機器の開発をめざす。P E Tは放射線を光信号に換えて輪切りの画像にする。イメージング(撮像)技術を用いており、県西部の企業が蓄積した光技術を生かすことができる。県も支援

する産官学の事業で、10年のメーカーで、ファルマバレーの登録企業だ。後の医療健康産業に4千億円の経済効果をもたらすことを目標にしている。県は許可が必要だし、販路を生かす必要がある。販路がないといけない」と語る。「東部の成果を」

ファルマバレー発の商品には少しずつ成果が出始めている。サンスターは患者向け口腔(こうくわ)ケア製品は、全国のがん診療拠点病院300カ所以上の売店で販売されている。タウンス(沼津市)のインフルエンザ診断キットは09年の新型インフルの流行で300万人分以上が売れた。県は「東部の成果を全県に広げたい」(経済産業部)と医療健康産業の育成に一層力を入れる方針だ。

んセンター(長泉町)を中心とした医療の現場で、どんな製品が必要かを探り、地元企業や提携大学を結びつけて開発する。医療健康産業への関心が高い県内企業約180社がプロジェクトに登録し、すでに30製品以上が誕生している。12月中旬、全国の医療機器メーカーと県の中小企業を結びつける「ビジネスマッチング展示会」が東京都アルマバレー事業では、口内ですべて開かれた。吸がでる機器を開発しは毎週木曜日に掲載し

静岡県内のニュースを追跡するスームアップ静岡

静岡支局長 松野哲朗